気持ちが整い、疲れが取れる家にする ／ 心身に効く呼吸法

クロワッサン

2019
4/10

2019年4月10日号（毎月10日・25日発行／3月25日発売）第43巻第7号 昭和52年5月21日第三種郵便物認可

部屋が整うと、心も体もスッキリする。

もやもや、実は住環境のせい？

"引き算"の暮らし方。DIYで、理想の空間。

後回しがなくなる片づけ。どうしたらキッチンがそこまで片づきますか？

第2特集
呼吸整体師・森田愛子さんに習う。
心身が整う呼吸法。

No.994 ¥540 特別定価

美しく暮らすことをアートから学びました。

岩立マーシャさん
クリエイティブディレクター

いわたて・まーしゃ●ファッション広告の仕事を経て、新規飲食業態やブランド等の総合プロデュースを手がける。住宅建築などに関する海外著書も多数。

玄関から目に入る広々としたリビング。階段を下りると、傾斜地を利用して地下の一部を吹き抜けにした、ダイニングとキッチンがある。

「数年前に引っ越してきました。それまでは人に貸していましたし、なにしろ築40年ですから、まずは掃除を徹底的に行い、それから家具やオブジェ、アート作品の配置を決めました」

岩立マーシャさんの暮らす空間には、様々な国のものが多数あるが、それらは絶妙なバランスで飾られている。

「アートとの関わり合いが、モノに対する考え方を教えてくれました」

24歳から4年間ニューヨークに住んでいた岩立さん。そこでジャスパー・ジョーンズや多くのアーティストと知り合い、親交を深めたことが大きい。ジャスパー・ジョーンズは、言わずと知れた20世紀のアメリカにおけるポップアートの先駆者。星条旗を描いた作品などで広く知られるアーティストだ。

「彼らから衣食住、すべてにわたって美しく暮らすことの本質を学びました。いいものを見たり、使うことでモノが輝き、自身の感性も磨かれていくのだと。器は料理を盛りつけ、日常に使うことで本来の役目を果たし、アートは毎日眺め、作者と対峙することで感情が豊かになる。これが美しく暮らすことに繋がっていくと」

旅先や出張先でも購入。拾ったものもディスプレイ。

家じゅうにアート作品や海外で求めた仏像やオブジェなどが所せましと飾られているが、ゴチャゴチャした印象はない。むしろ、整然とした配列の美しさが際立ち、心地よい空間になっている。

「モノがたくさんある場合、コントラストをどう取るのかが重要です。配置のルールはありません」

自分はコレクターではないので、モノを収集するルールはありません、とも岩立さんは語る。あえて異質なもの同士を並べて、そこから生まれる空気を楽しんでいる。言うなれば「見立て」。岩立さんのフィルターを通した異なるものたちは、不思議に同じテイストに見える。

「各国で買い求めたものをグルーピングし、どのアート作品と組み合わせるとベストか？　これが自分を磨く要素のひとつなのかもしれません」

額装にもそのセンスが遺憾なく発揮されている。

「額は、作品との調和が一番重要なことは言うまでもありません。そのうえで、作品を生かす材質と色をセレクト。小さい作品でも、バランスがよければ大きい額に入れることもあります」

家具やオブジェは各国のアンティークが多いが、拾ったものをそこにプラスすることもある。

「様々なマテリアルやテクスチャーの絶妙な取り合わせを楽しんでいるのかも。家にあるものの多くは旅先や出張先で購入。石や流木などは拾ったもの。それらと日々、生活していると記憶が蘇ります。その時間、その時を共有した人、風景……。考えれば、そういった記憶が仕事のインスピレーションになっていることもあるように思います」

本棚とソファを白で統一。アートやオブジェが映える。日常使う文房具は、木のトレイの上にまとめてオブジェ風に。

吹き抜けのダイニング。モンステラの鉢をメインに、中国の漆の茶器入れ、モロッコのランタンなどを置いた。モノの分量があるのにすっきり見える。

ミニチュアのオブジェは雑多な印象になるが、李朝の小たんすの上に配置され、美しく見える。ピンクは拾ったケンタッキーおじさん。

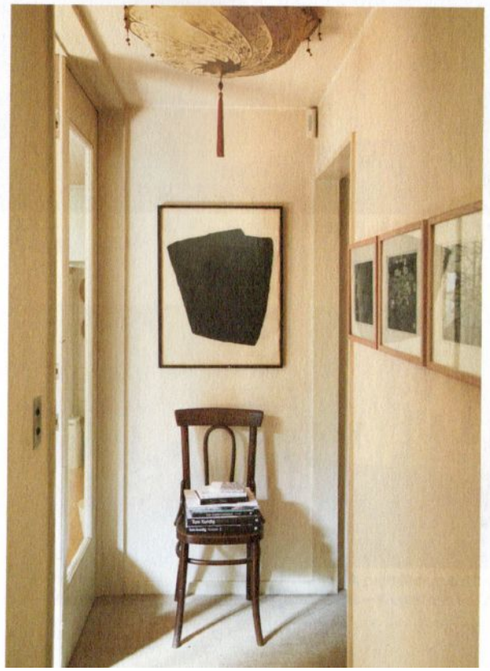
鍵や郵便物は玄関のライティングデスクが定位置。大理石上のスリランカの仏像が見張り番。

コントラストや組み合わせの意外性、アートとの調和を考えて。

キッチン
キッチンツールはまとめて収納。迷子にならない。

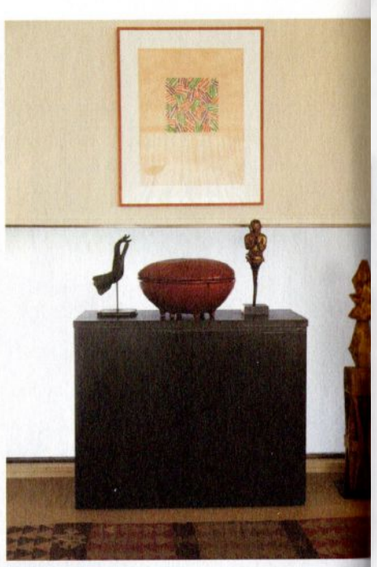
上・キッチンに溢れがちな木べらやトングなどはステンレスのツールスタンドにまとめて収納している。木彫のサル、燭台、花と共に並べると生活感が薄れるから不思議。陶器の蓋物は陶芸家の作品だが、中には日常的に使う楊枝が入っている。アートを飾るのではなく、日常的に使う実例がここに。
左・電子レンジ上の缶。桜皮の茶筒や古い缶の色や絵柄が好きなのでコレクション。ネスプレッソのカプセルや茶葉入れに活用する。

階段下
額は同一サイズ。目の高さで一列に飾ると、圧迫感がなく見やすい。



1階のリビングから階下に下りた所の壁に同じサイズの額を目の高さで飾る。正面にはインパクトのあるジョエル・シャピロの木版を。椅子を配してバランスを取る。照明器具はイタリアで活躍したファッションデザイナー、マリアノ・フォルチュニが1910年代にデザインしたシルク製。

リビング
シンメトリーの美しさをディスプレイで表現。



リビングに置いたチェスト。ブロンズの釈迦の手と仏像が朱の漆器を挟む。2つのオブジェの上にジャスパー・ジョーンズの版画があり、視点が動かないので整然と見える。右はヒマラヤの魔除けに使われていたもの。

トイレ
窓枠を額に見立て、庭の植物を絵画にした窓。

トイレの窓枠を額に見立てて、庭の植物を自然の絵画に。中国骨董の虫かご、古いラリックのガラス瓶、銀製のモロッコのコール(アイライン)入れ、ギリシャの彫刻などが雑然としているようでバランスよく置かれている。

ダイニング
思い出のものを壁にコラージュ。

サイズも異なり、額の色もまちまちな作品は友人のイラストレーターや写真家が制作してくれたもの。散歩中の風景スナップや新聞記事を引き伸ばして額に入れたものなど。机や棚の上に思い出の写真を飾るように壁にコラージュ。

ダイニング
揺らめく光で癒やされ、食とお酒を美しく演出する。

キャンドルは部屋に欠かせないアイテム。ダイニングテーブルには、キャンドルホルダーをジャワのお盆に。ガラスのカットによって炎の揺らめきが違うので、美しく輝くベストなものを常に探す。